

目盛付タンク

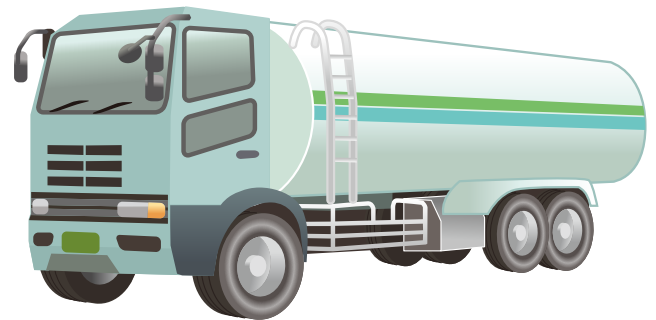
超巨大な計量カップ

古くから使われていた「木のます」は手に持てるサイズでしたが、ガソリン、灯油、お酒、あるいは牛乳など、たくさんの液体を溜めておくものはどのようにはかればよいのでしょうか？

そこで活躍するのが、目盛付タンクです。タンクの外側に、「今、中にどれくらいの量が入っているか」が一目でわかるように目盛りがついているものを指します。

どうやって中身をはかるの？

一般的にタンクは金属でできているので、外からは中身が見えません。そこで主に2つの方法で「目盛り」をつけています。



1：液面計

タンクの横に細いガラスやプラスチックの管が付いたものです。お風呂にストローを立てると同じ高さまで水がくるように、管のなかの高さを見れば中身の量がわかります。

2：フロート

タンクのなかに「浮き」を入れて、それが上がったたり下がったりする動きを外側の目盛りに伝えます。

長さ計（ものさし）

タクシメーター

皮革面積計

目盛付タンク

質量計（はかり）

圧力計と血圧計

化学用体積計

燃料油メーター（自動車等給油メーター）

ます

温度計と体温計

ガスメーター

液化石油ガスメーター

織度計

浮ひよう（密度・比重・濃度）

水道メーター

環境計量器

実は「目盛り」はとっても大切

タンクの日盛りは、古くから法律で特に厳しくチェックされてきました。

1：「お金」に関わる

ガソリンやお米を「タンク1つ分」で売り買いするとき、目盛りの1ミリがズレるだけでバケツ何倍分もの差が出てしまいます。

2：「安全」に関わる

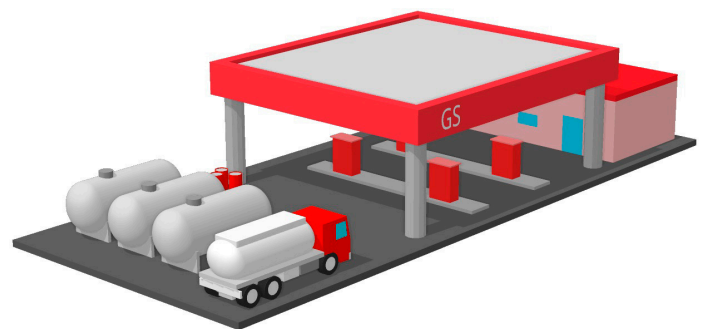
タンクが満タンなのに「まだ入る」と勘違いして流し込んでしまったら、あふれて火事や事故の原因になります。

タンクローリーは「目盛付タンクの究極の形」！

タンクローリーはズバリ、「走る巨大な計量カップ」です。大きなタンクの中はいくつかの小さな部屋に分かれていて、ガソリンや灯油など、一度に違う種類のを運べます。各部屋の中には「ここまで入れたらピッタリ〇〇リットルですよ」という目印の棒やプレートりょうきようじゃく（量器用尺）が入っています。このプレートには、検定検査を受けた証拠の「合格の印（検定証印）」が押されているんですよ。

目盛付タンクの検定は、昭和27年（1952年）に始まり、最初は国が検定を行っていました。しかし、31年（1956年）

には全量が1 m³以下の目盛付タンク、そして38年（1963年）には目盛付タンクローリーの検定が都道府県にゆだねられました。現在も東京都ではタンクローリーの計量部分であるりょうきようじゃく量器用尺の検定を行っています。



長さ計（ものさし）

タクシメーター

皮革面積計

目盛付タンク

質量計（はかり）

圧力計と血圧計

化学用体積計

燃料油メーター（自動車等給油メーター）

ます

温度計と体温計

ガスメーター

液化石油ガスメーター

織度計

浮ひょう（密度・比重・濃度）

水道メーター

環境計量器